

在宅避難困難者の防火安全対策

在宅避難困難者の防火安全対策

市内全域で一人暮らしの高齢者や高齢者同士の世帯が増加しているため、高齢者が火災で死傷されるケースが多くなっています。

京都市消防局では、高齢者や身体に障がいのある方のうち、火災等の災害が発生した場合に自ら避難できない方（在宅避難困難者）を対象とした防火安全対策を実施しています。

■ 防火安全指導の実施

消防職員が在宅避難困難者世帯を訪問し、出火防止や人命に係る事項の点検を実施するとともに、世帯構成や生活環境に合わせた防火指導又は助言を行っています。



防火安全指導の様子（台所周りの点検）



防火安全指導で配布する
出火防止リーフレット

◆ 火災予防上の指導事項

- ・ 火気取扱器具の正しい取扱い
- ・ 安全な喫煙管理
- ・ 容易に避難できる場所での就寝
- ・ 住宅用防災機器の設置と維持管理
- ・ 介助者に対する避難救出方法の指導
- ・ 近隣者等との避難救出協力体制づくり

■ 高齢者等のための安心アドバイザー研修

高齢者宅等からの出火防止や焼死者防止を図るため、「高齢者等のための安心アドバイザー研修」を実施しています。

高齢者等に接する機会が多いホームヘルパーや老人福祉委員等を対象に、「防火・防災」、「家庭内での救急事故防止」に関する研修を受講していただき、高齢者宅等を訪問した際に、防火・防災・救急事故防止のアドバイスをしていただくよう依頼しています。



研修テキスト
（安心アドバイザーハンドブック）

■ 民間団体と連携した防火・防災対策

● 電気配線診断

電気使用安全月間（8月1日から同月31日まで）の取組の一環として、京都府電気工事工業組合が実施する「高齢者宅配線診断」に併せて、消防職員による防火安全指導を実施し、高齢者世帯等における防火及び安全の確保を図っています。

● 火災警報器点検

火災警報器（戸外ブザー有）が設置されている在宅避難困難者世帯を、消防職員と（一社）京都消防設備協会の会員事業所が訪問し、火災警報器の点検（小修理を含む。）に併せて消防職員による防火安全指導を実施しています。

● 訪問看護ステーションの看護師による住宅防火点検

平成29年9月14日に締結した「高齢者等世帯の火災予防に関する協定」に基づき、（一社）京都府訪問看護ステーション協議会に加盟している事業所の訪問看護師の方に、高齢者等世帯への「住宅防火点検」に御協力いただいています。

■ 緊急通報システム（あんしんネット119）

消防局と保健福祉局が共同で、在宅の一人暮らしの高齢者や身体に障がいのある方等が家庭内で緊急事態に遭われたときに、ボタン一つで消防指令センターへ通報できるシステムを運用しています。また、緊急通報システムを利用されている方のうち、自力歩行できない方等を対象に緊急通報システムへ無線で連動する住宅用火災警報器（緊通連動住警器）を設置し、火災の煙を感知した場合、自動的に消防指令センターへ通報するシステムを運用しています。



緊急通報システム（本体）



緊通連動住警器



緊通連動住警器
を紹介するパンフレット

■ 消防ファクシミリ

聴覚言語に障がいのある方が、加入電話ファクシミリを用いて消防指令センターへ緊急通報できるシステムで、防火・防災に関する相談や火災予防に関する情報提供も行っています。



■ NET119（スマートフォン等を用いた緊急通報システム）

京都市消防局では、平成31年3月1日から聴覚言語障がい者等からの緊急通報への受信体制を強化するため、「NET119」（スマートフォン等を用いた緊急通報システム）を導入しました。

音声での緊急通報が困難な方を対象とした通報の仕組みで、スマートフォン等を用いて、いつでも、全国どこからでも通報場所を管轄する消防に緊急通報することができます。



NET119の仕組み



NET119の通報画面

■ 京都市版ヘルプカード

高齢者や障害をお持ちの方が、緊急時や災害時等に周囲の人に支援を求めるためのカードです。

カードに医療情報や緊急連絡先、障害特性や緊急時・災害時の対処方法等を記載しておき、困ったときに周囲の人や救急隊などにカードを見せることで、必要な支援が受けやすくなります。

平成30年までお配りしていた「安心カード」と「ふれあい手帳」に加え、「ヘルプマーク」の特徴を併せ持つカードです。



※ 「安心カード」・「ふれあい手帳」の配布は終了していますが、お持ちのものは継続して使用いただけます。



京都市版ヘルプカードは、12面構成になっています。

利用方法を記載したチラシと一体型になっていますので、ヘルプカード部分を切り取り、必要な内容を記載して御利用ください。

自主防災組織の育成・市民防災指導

自主防災組織

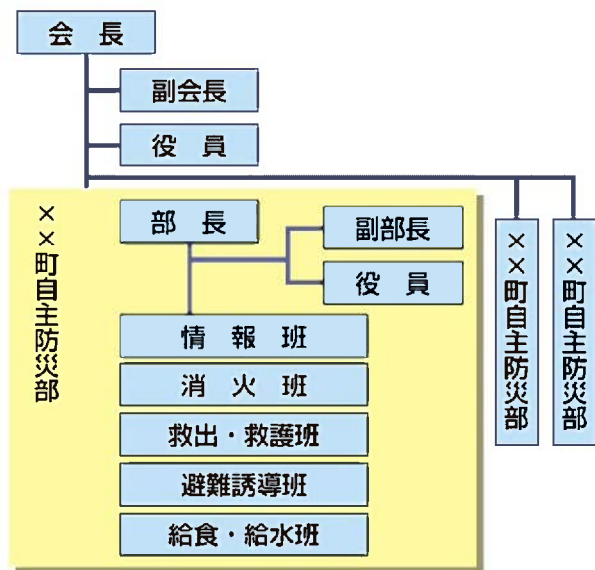
大地震などの大規模な災害が発生したときに、災害による被害を防止し、軽減するためには、日頃から市民一人一人が防災活動に積極的に参加するなど、地域住民全員による組織的な防災活動を行うことが大切です。

このため、消防局では自主防災組織の育成指導に積極的に取り組んでいます。

京都市では、昭和34年から昭和36年頃にかけて、住民による防火組織として、自主防火町が市内全域で結成されました。この自主防火町制度を火災だけでなく、地震等の災害にも対応できるように発展させたのが自主防災組織で、おおむね学区を単位に自主防災会を、町内会を単位に自主防災部が結成されています。

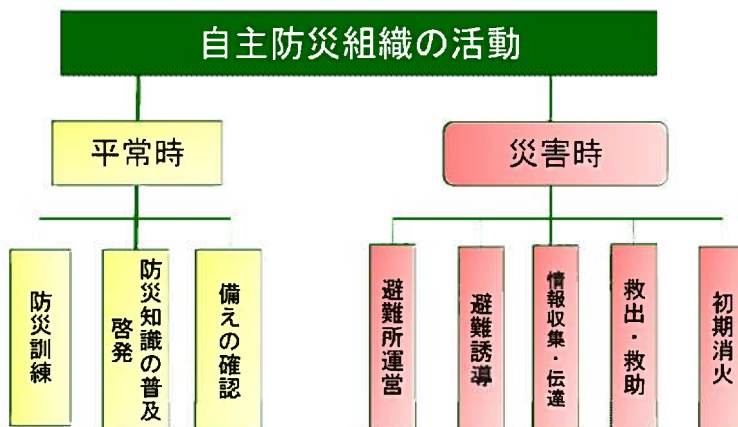
自主防災組織は、「自分たちのまちは自分たちで守ろう」という精神で、より広域かつ密着した地域連帯による防火・防災活動を行うとともに、地域のコミュニティ組織、事業所の自衛消防隊と関係機関が一体となった地域防災ネットワークの構築を目指しています。

〇〇学区自主防災会



自主防災会活動

自主防災会では、各自主防災会で定めた規約や防災計画に基づき、平常時には防災知識の普及啓発、地域の備え、防災訓練の実施など、様々な活動が行われています。また、災害時は、避難所運営をはじめ、避難誘導、情報収集、救出など、地域住民同士で助け合って活動します。



京都市自主防災会連絡会

行政区を超えた協力体制の構築や情報共有を図り、全市的な自主防災活動の更なる活性化を図ることを目的として平成30年7月2日に結成されました。



取組事項
・ 区連絡会等の活動に係る情報交換 ・ 京都市全体に係る自主防災活動に関する課題の検討 ・ 大規模災害時における支援及び協力に関する連携の推進 ・ その他必要な事項

【防災に関する課題検討会】

○ 平成 30 年度

大阪府北部地震や 7 月豪雨での自主防災活動で課題となった情報伝達，連絡体制や各種団体との連携について意見交換などを行いました。

○ 令和元年度

各行政区で実施された地域防災力向上に向けた課題検討会での結果報告をはじめ，東山区今熊野学区における『坂のまちの防災対策』の紹介，参考となる防災活動事例の共有や意見交換などを行いました。



令和元年度の検討会の状況

自主防災組織用器材の整備

京都市では，平成 7 年 1 月 17 日に発生した阪神・淡路大震災の教訓として，早期に救出救護活動を実施するには，各種防災器材の整備が必要であることを踏まえ，全自主防災会に対して，救出救護器材とそれらを収納する防災器材格納庫を配備しました。

防災器材名	配備数	防災器材名	配備数
防災器材格納庫	1	リヤカー	1
ボール	8	テント	1
ジャッキ	10	はしご	1
ハンマー	4	強力ライト	4
ショベル	8	電気メガホン	1
のこぎり	8	メガホン	8
担架	4	その他自主防災会が 選択した器材	
シート	2		



救出救護用器材及び防災器材格納庫

事業所と地域（自主防災会）との連携

地域防災ネットワークの一つとして，事業所（企業）は，自助の観点から事業所防災を推進するとともに，共助の観点から地域防災活動に貢献し，周辺地域との連携強化を推進することが大切です。このため，平成 10 年度から，大規模災害時における被害軽減のため，各事業所の特性をいかして，事業所と自主防災会との連携を図るという取組を推進しています。

事業所と自主防災会とが応援協定を締結し、連携が図られている例として、事業所側からは、防災活動の応援、防災活動（救出救護、消火、給食給水）用資器材の提供、食料・飲料水の提供、避難場所の提供などが挙げられます。また、自主防災会側からは小規模事業所に対し、防災活動を支援するといった協定の例があります。さらに、防災訓練や研修を通じて、締結内容がより実効性のあるものとするとともに、相互の信頼関係を構築されています。



事業所の井戸水を活用した消火訓練

防災行動マニュアルの運用

阪神・淡路大震災では、建物への閉じ込めや下敷きになった方の多くが、御近所の顔見知りの方に救出されました。また、地震による火災の被害を最小限に留めたのも、日頃からの連帯が強い地域でした。災害が起こった際は、家庭や地域のつながりが大切であることは東日本大震災でも明らかになっています。

大規模災害発生時には、自主防災会と自主防災部の連携した活動が重要であることから、自主防災会の防災計画となる防災行動マニュアルが平成29年度までに策定されました。平成30年度からは、各自主防災部で策定されている防災計画との整合性を図るとともに、より実効性の高い内容となるよう、防災訓練等を通じて検証、必要な見直しを行い、いざというときに自ら考え行動できる自主防災組織づくりを推進します。



【防災行動マニュアル運用の流れ】



自主防災部活動ファイル

令和元年度、各自主防災部の活動の指針を示した自主防災部活動ファイルを作成しました。災害が発生した際に活用する「災害発生時」と、災害への備えとして活用する「平常時」の自主防災部の活動要領が記載されています。

「災害発生時」には、被害状況・安否確認用地図により、地域の災害状況を把握し、自主防災会に情報を伝達する必要があります。自主防災部活動ファイルの中に活動要領が記載された防災行動

自主防災部活動ファイル

自主防災部名

消防職員・自主防災部長 確認シート

この確認用シートは、自主防災部長と各担当員が自主防災部活動の進捗を確認するためのものです。自主防災部の活動状況について、消防団員が定期的にチェックし、必要に応じて指導を行います。

項目	確認内容	担当者	確認日
1	自主防災部の組織体制が明確であること	25%	
2	自主防災部の活動計画が作成されていること	40%	
3	自主防災部の活動実績が把握されていること	40%	
4	自主防災部の活動報告が作成されていること	75%	
5	自主防災部の活動参加者が適切であること	75%	
6	自主防災部の活動参加者のスキルアップが図られていること	75%	
7	自主防災部の活動参加者のモチベーションが向上していること	75%	
8	自主防災部の活動参加者の協力意識が高まっていること	75%	
9	自主防災部の活動参加者の責任感が強まっていること	75%	
10	自主防災部の活動参加者のチームワークが向上していること	75%	
11	自主防災部の活動参加者のコミュニケーション能力が高まっていること	75%	
12	自主防災部の活動参加者のリーダーシップが発揮されていること	75%	
13	自主防災部の活動参加者の問題解決能力が高まっていること	75%	
14	自主防災部の活動参加者の柔軟性が高まっていること	75%	
15	自主防災部の活動参加者の創造力が高まっていること	75%	
16	自主防災部の活動参加者の協調性が高まっていること	75%	
17	自主防災部の活動参加者の忍耐力が高まっていること	75%	
18	自主防災部の活動参加者の決断力が高まっていること	75%	
19	自主防災部の活動参加者の実行力が高まっていること	75%	
20	自主防災部の活動参加者の達成感が高まっていること	75%	

訓練メニュー オーターシート 兼 記録書

項目	実施日時	実施場所	実施者	実施結果
1	自主防災部の組織体制の確認	自主防災部本部	消防団員	
2	自主防災部の活動計画の確認	自主防災部本部	消防団員	
3	自主防災部の活動実績の確認	自主防災部本部	消防団員	
4	自主防災部の活動報告の確認	自主防災部本部	消防団員	
5	自主防災部の活動参加者の確認	自主防災部本部	消防団員	
6	自主防災部の活動参加者のスキルアップの確認	自主防災部本部	消防団員	
7	自主防災部の活動参加者のモチベーションの確認	自主防災部本部	消防団員	
8	自主防災部の活動参加者の協力意識の確認	自主防災部本部	消防団員	
9	自主防災部の活動参加者の責任感の確認	自主防災部本部	消防団員	
10	自主防災部の活動参加者のチームワークの確認	自主防災部本部	消防団員	
11	自主防災部の活動参加者のコミュニケーション能力の確認	自主防災部本部	消防団員	
12	自主防災部の活動参加者のリーダーシップの確認	自主防災部本部	消防団員	
13	自主防災部の活動参加者の問題解決能力の確認	自主防災部本部	消防団員	
14	自主防災部の活動参加者の柔軟性の確認	自主防災部本部	消防団員	
15	自主防災部の活動参加者の創造力の確認	自主防災部本部	消防団員	
16	自主防災部の活動参加者の協調性の確認	自主防災部本部	消防団員	
17	自主防災部の活動参加者の忍耐力の確認	自主防災部本部	消防団員	
18	自主防災部の活動参加者の決断力の確認	自主防災部本部	消防団員	
19	自主防災部の活動参加者の実行力の確認	自主防災部本部	消防団員	
20	自主防災部の活動参加者の達成感の確認	自主防災部本部	消防団員	

各御家庭における家族のあり方や家屋の形態（一軒家又は共同住宅）、地域の状況等を踏まえ、震災時、水災時及び土砂災害時にどの段階で、どのような防災行動を取るのかを記載し、冷蔵庫や玄関など目に付くところに貼っていただくシールを平成 29 年 9 月から配布しています。

我が家の防災行動

地震のとき

地域の集合場所

品度

以上のとき

または、
町内に被害があるとき

在宅避難できるなら
自宅に戻る

へ避難する

水

災害のとき ① 地域の想定浸水区域や建物構造等により取るべき行動が異なります。

☐ 避難準備・高齢者等避難開始

☐ 避難勧告

が発令されたら

たら

へ避難する

土

砂災害のとき ① 地質の状況や建物構造等により取るべき行動が異なります。

☐ 避難準備・高齢者等避難開始

☐ 避難勧告

が発令されたら

たら

へ避難する

の防災行動

大規模な自然災害が起きたとき、起きそうとき、命を守ってもらうためにも備にお住まいのみなさんが防災行動につながる行動を記載しています。

地震のとき

地震発生時

揺れが止まるまで

揺れが止まるまで

揺れが止まるまで

揺れが止まるまで

揺れが止まるまで

水

土

防災行動ポスター

地域の集合場所を起点とした、近隣住民による早期協力体制の立上げ及び初期消火の重要性の理解を深め、即時対応能力の向上を図るとともに、既存の自主防災部の防災行動マニュアルの見直しや策定を推進します。



『1分』で分かる自主防災 ～BOSAI アニメ～

地震、水災害、土砂災害、台風による強風被害などの自然災害の怖さや、自助、共助をはじめとした防災活動や備えの大切さについて、合計10テーマ、1動画約1分の短編アニメーションでお伝えしています。

- (1) 我が家の防災行動シール編
- (2) 自主防災組織編
- (3) 防災意識編
- (4) 地震編（事前対策）
- (5) 地震編（災害対応）
- (6) ハザードマップ編
- (7) 警戒レベル編
- (8) 知識編（避難場所・避難所）
- (9) 台風・強風編（事前対策）
- (10) 地域の集合場所で行うこと編



防火・防災指導

市民一人一人が自らの安全についての意識を持ち、火災や地震などの災害や家庭内の事故などに対し、適切に対応する知識や技術を身に着的けていただき、災害に強い人づくりを進めるため、自主防災組織、事業所、ジュニア消防団、教育施設（未就学児施設を含む）、老人クラブ、その他の各種団体等をはじめとした全ての市民を対象に、防火・防災指導や応急手当等の普及啓発等を行っています。市内各所において、あらゆる機会を通じて、消火器の取扱いや地震の体験、講習会などを開催し、火災予防の普及促進や災害発生時の初動活動等の指導を行っています。

年代別防災指導カリキュラム

地震や水災害をはじめとする災害が各地で頻発し、住民の生命、身体及び財産を災害から守るための地域防災力の重要性が高まる一方で、少子高齢化などの社会情勢の変化により、今後、地域の中心で防災活動を実施できる人材を十分に確保することが困難となっています。

そこで、地域防災活動の担い手となる幼少年の防災教育を充実させるため、年代に応じた防災指導カリキュラムを作成しました。このカリキュラムにより、系統立てた長期的な防災指導を実施し、いざというときに自ら考え命を守る行動を取るとともに、周りの人を助けることができる人づくりを推進します。



市民消防表彰

日頃から積極的に自主防災活動等を実践し、安全なまちづくりに貢献した市民団体及び個人の努力をたたえるため、次の区分により表彰を行っています。

◇ 自主防災会等表彰

自主防災活動等の実践について著しく努力し、功績のあった自主防災会、自主防災部等

◇ 自主防災活動推進功労者表彰

自主防災活動の推進について著しく努力された自主防災組織役員

◇ 防災功労者表彰

自主的な火災予防等の活動について著しく努力された団体及び個人

◇ 事業所表彰

自主防火管理の実践について著しく努力し、顕著な成果のあった事業所

緊急消防援助隊の派遣状況

■ 派遣部隊の登録状況

緊急消防援助隊は、阪神・淡路大震災を教訓に全国の消防機関による応援を速やかに実施するため、平成7年に創設されました。平成16年4月には、消防組織法の改正により法律に基づいた部隊となり、令和2年4月現在、全国6,758部隊（重複含む。）が登録されています。

京都市においては、消防ヘリコプターを運用する航空小隊や都道府県隊をまとめるための指揮支援隊をはじめ、消火・救助・救急小隊など、多くの部隊を登録し、大規模災害に備えています。

※ 令和2年4月現在の登録隊数 （複数部隊への重複登録を含む。）

- ・指揮支援隊… 3隊
- ・京都府大隊指揮隊… 1隊
- ・統合機動部隊指揮隊… 1隊
- ・NBC災害即応部隊指揮隊… 1隊
- ・土砂・風水害機動支援部隊指揮隊 1隊
- ・航空指揮支援隊… 1隊
- ・消火小隊… 17隊
- ・救助小隊… 2隊
- ・救急小隊… 5隊
- ・通信支援小隊… 1隊
- ・後方支援小隊… 6隊
- ・航空後方支援小隊… 1隊
- ・特殊災害小隊… 4隊
- ・特殊装備小隊… 11隊
- ・航空小隊… 2隊
- 計…57隊



■ 派遣状況（令和2年4月1日現在）

京都市消防局では、消防庁長官の求め・指示により、創設以来10回出動しています。

1	【平成15年十勝沖地震】出光興産北海道製油所原油タンク火災に伴う警戒活動 平成15年10月13日～22日（10日間） 北海道苫小牧市 3隊7名派遣 〔指揮隊1，消火隊2〕   消防庁出典
2	【平成16年7月福井豪雨】浸水家屋に取り残された住民の救助活動等 平成16年7月18日～19日（2日間） 福井県月見4丁目，5丁目 12隊52名派遣 〔指揮支援隊2，京都府指揮隊1， 消火隊1，救助隊3，救急隊1， 後方支援隊3，航空小隊1〕  

	【ＪＲ西日本福知山線列車事故】列車事故に伴う情報収集活動
3	平成17年4月25日 兵庫県尼崎市 1隊5名派遣〔航空小隊〕（ヘリＴＶ電送システムを使用した消防庁への事故状況の電送等）
	【奈良県吉野郡上北山村土砂崩れ車両埋没事故】土砂崩れによる車両埋没事故に伴う指揮支援活動等
4	平成19年1月30日 奈良県吉野郡上北山村 2隊7名派遣〔指揮支援隊1，航空小隊1〕 （ヘリＴＶ電送システムを使用した消防庁への事故状況の電送等）
	【平成19年能登半島地震】地震被害に伴う指揮支援活動等
5	平成19年3月25日～26日（2日間） 石川県金沢市，輪島市 3隊15名派遣〔指揮支援隊2，航空小隊1〕 （指揮支援活動及びヘリＴＶ電送システムによる情報収集）
	【平成19年新潟中越沖地震】地震被害に伴う情報収集活動
6	平成19年7月20日～23日（4日間） 新潟県新潟空港，柏崎 1隊5名派遣〔航空小隊〕 （救急搬送活動及びヘリＴＶ電送システムによる情報収集）
	【東日本大震災】津波被害に伴う救助活動等
	陸上隊 宮城県本吉郡南三陸町 平成23年3月11日～4月13日（34日間）延べ159隊，495名派遣
	  
	航空小隊 山形県，長野県，宮城県，福島県 平成23年3月11日～18日，3月18日～25日，4月1日～5日，4月10日～14日（20日間） 延べ4隊，20名派遣
7	  
	福島第一原子力発電所 平成23年3月27日～31日（5日間）延べ11隊，40名派遣
	  

【平成 28 年熊本地震】地震被害に伴う情報収集や要救助者の検索活動等

- ・ 陸上隊 熊本県熊本市，南阿蘇村
平成28年4月16日～22日（7日間）
延べ46隊，126名派遣



- ・ 航空小隊 南阿蘇村
平成28年4月16日～17日（2日間）
延べ1機，4名派遣



【大阪府北部地震】地震被害に伴う情報収集

- ・ 航空小隊 大阪府北部地域
平成30年6月18日
延べ1機，5名派遣

【平成30年7月豪雨】豪雨災害に伴う要救助者の検索活動等

- ・ 陸上隊 広島県安芸郡熊野町川角地区，広島市安芸区矢野地区，安芸郡坂町小屋浦地区
平成30年7月12日～8月1日（21日間）
延べ68隊，228名派遣



国際消防救助隊の派遣状況

国際消防救助隊の派遣状況



国際消防救助隊
ワッペン

京都市消防局では、海外において大規模な災害が発生した場合に消防機関の高度な資機材や技術を活用した捜索救助活動等を実施する「国際消防救助隊」に、11名の救助隊員を総務省消防庁に登録しています。

総務省消防庁は、国際消防救助隊を昭和61年の発足から現在まで、世界各地の被災地に20回派遣しており、京都市消防局はそのうち5回の派遣実績があります。



■ 台湾地震

平成11年9月に台湾中央部で発生した地震では、救助隊員4名（中隊長1名、隊員3名）を派遣しました。

地震発生日時	平成11年9月21日(火)2時47分(日本時間)
震源地／規模	台湾中央部付近／マグニチュード7.7（米国地質調査所発表）
被害	死者2,375名、負傷者10,002名
派遣期間	平成11年9月21日～9月28日（8日間）
派遣先	台中県、南投県、台北直轄市及びその周辺
派遣人数	国際消防救助隊員46名
任務	倒壊建物内の捜索及び救助活動
活動内容	8市町村(市・郷・鎮)の17現場で32回出動、85カ所検索 8名発見、7名救出（生存者はなし）

■ アルジェリア地震

平成15年5月にアルジェリア民主人民共和国ブーメルデス県ゼンムリ市付近で発生した地震では、救助隊員2名（隊員）を派遣しました。



地震発生日時	平成15年5月22日(木)3時45分(日本時間)
震源地／規模	ブーメルデス県ゼンムリ市付近／マグニチュード6.7（米国地質調査所発表）
被害	死者2,266名、負傷者10,000名以上
派遣期間	平成15年5月22日～5月29日（8日間）
派遣先	首都アルジェ東方約50kmのブーメルデス県ゼンムリ市内
派遣人数	国際消防救助隊員17名
任務	倒壊建物内の捜索及び救助活動
活動内容	ゼンムリ市内の6階建てホテル倒壊現場の捜索及び救助活動 6名発見、6名救出(うち生存者1名救出)

■ モロッコ地震

平成16年2月にモロッコ王国アル・ホセイマで発生した地震」では、救助隊員1名（隊員）を派遣しました。



地震発生日時	平成16年2月24日（火）11時27分（日本時間）
震源地／規模	アル・ホセイマ／マグニチュード6.4（米国地質調査所発表）
被害	死者628名，負傷者926名
派遣期間	平成16年2月25日～3月1日（6日間）
派遣先	モロッコ王国北東部ホセイマ付近
派遣人数	国際消防救助隊員7名
任務	倒壊建物内の捜索及び救助活動
活動内容	タマント等の4地域を視察（救助活動サイトの確認）等

■ ニュージーランド南島地震

平成23年2月にニュージーランドクライストチャーチ市近郊で発生した地震では、救助隊員3名（小隊長1名，隊員2名）を派遣しました。



地震発生日時	平成23年2月22日（火）8時51分頃（日本時間）
震源地／規模	クライストチャーチ市近郊／マグニチュード6.3（推定値）
被害	死者181名（うち邦人28名）
派遣期間	第1次：平成23年2月22日～3月3日（10日間） 第2次：平成23年2月28日～3月8日（9日間） 第3次：平成23年3月5日～3月12日（8日間）
派遣先	ニュージーランド南島クライストチャーチ市
派遣人数	国際消防救助隊員33名（第1次：17名，第2次：8名，第3次：8名）
任務	倒壊建物内の捜索及び救助活動
活動内容	倒壊したCTVビルの捜索及び救助活動 国籍・身元不明の複数の遺体を発見

■ メキシコ合衆国地震災害

メキシコ合衆国モレロス州アソチアパン市南東付近で発生した地震では、救助隊員 3 名（隊員）を派遣しました。



地震発生日時	平成29年9月20日(水)3時14分頃（日本時間）
震源地／規模	メキシコ合衆国モレロス州アソチアパン市南東12km ／マグニチュード7.1(推定値)
被害	死者369名，負傷者約8,800名
派遣期間	平成29年9月21日～9月28日まで（8日間）
派遣先	メキシコ合衆国（メキシコシティ）
派遣人数	国際消防救助隊員17名
任務	倒壊建物内の捜索及び救助活動
活動内容	メキシコシティの3箇所（プレターニャ，オブレゴン，トラルパン）の倒壊建物の捜索及び救助活動，1名を救出（生存者はなし）

消防救助活動器材

消防救助活動用器材の種類等

火災，救助等の各種災害活動用器材を配備して有効に活用しています。

器具の種類	器具の内容
放水器具	ホース（50 mmホース，65 mmホース），放水ノズル（ガンタイプ，ストレート，ダブルコントロール，切替え），泡ノズル，高発泡発生装置（発泡装置），放水銃座，放水砲，小型動力ポンプ，ジェットシューター
救助器具	マット型空気ジャッキ，救助用ロープ，油圧式救助器具，かぎ付はしご，三連はしご，チェーンソー，可搬式ウインチ，削岩機，電動鋸，携帯式溶断器，救命索発射銃，空気式救助マット，救助担架，緩降機，救助用支柱器具，救助用縛帯，潜水器具，救助ボート，救命浮環，救助検索棒，空気切断器，画像探索機，地中音響探知機，熱画像直視装置，夜間用暗視装置，地震警報器，電磁波探査装置，二酸化炭素探査装置，水中探査装置
保安器具	ウェットスーツ，ドライスーツ，放射線防護服，化学防護服，救命胴衣，空気呼吸器，空気ボンベ，循環式酸素呼吸器，放射線測定器，有毒ガス測定器，酸素欠乏爆発ガス警報器，可燃性ガス検知器，可搬型ガスクロマトグラフ質量分析装置，生物剤検知装置，化学剤検知器
大規模災害対策用備蓄器材	大地震災害用小型動力ポンプ，小型ポンプ（台車付），可搬式放水砲，折たたみリヤカー，可搬式照明器具，携帯用救助工具，コンクリート破砕器，油圧鉄線鋏，鉄筋カッター，レスキューザック，長尺バール，燃料携行容器，サバイバルシート
その他	船外機，可搬式発動発電機，投光器，可搬式排煙機，可搬式組立水槽，ウォーターバケット，可搬（携帯）無線機，除染シャワー，H I D携帯型照明装置



全国消防救助技術大会への参加状況

全国消防救助技術大会への参加

京都市消防局では、消防救助基本技術の習得と消防救助活動に必要な体力、精神力、技術力を養うとともに、他の模範となる救助隊員の育成を目的として、昭和47年開催の第1回大会（東京都）から全国消防救助技術大会に参加しています。

全国消防救助技術大会は、全国9地区の地区大会（当局の場合は、京都府消防救助選抜会及び消防救助技術東近畿地区指導会）を勝ち抜いた救助隊員が鍛え抜かれた屈強な体力と強い精神力で技術力と迅速性を競うもので、陸上の部（7種目）、水上の部（7種目）、技術訓練が実施されています。

■ 第48回全国消防救助技術大会の結果

令和元年度、岡山市で開催された「第48回全国消防救助技術大会」では、京都市消防局から地区大会を勝ち抜いた「陸上の部」1種目と「水上の部」6種目において出場しました。

結果は、水上の部「溺者救助」が全国“2位”の成績を収め、他の陸上の部「障害突破」、水上の部「複合検索」「基本泳法」「溺者搬送」「水中結索救助」が入賞しました。

【陸上の部】 障害突破	16位（109.7秒）	入賞（22チーム中）
【水上の部】 複合検索	16位（25.6秒）	入賞（26人中）
基本泳法	14位（32.3秒）	入賞（26人中）
溺者搬送	6位（27.3秒）	入賞（18チーム中）
水中結索	13位（67.4秒）	（14チーム中）
溺者救助	2位（27.3秒）	入賞（18チーム中）
水中検索救助	8位（71.5秒）	入賞（9チーム中）



広報・広聴活動

市民の皆様と共に、消防行政を効果的に推進するため、日頃から「市民の声」に耳を傾けるとともに、市民の皆様が知りたい情報、暮らしの安全確保に役立つ情報などをタイムリーに提供して、消防行政への理解と協力が得られるよう、積極的な広報・広聴活動を実施しています。

主な広報活動

■ 市民しんぶんや報道機関等を通じた広報

各種事業や防火防災行事等について、市民しんぶんへの掲載や、市政記者クラブ等を通じた新聞・テレビ等の報道機関への広報発表を行っています。

■ 印刷物やビデオ等を通じた広報

防火運動の推進や防災知識の普及啓発等を積極的に行うため、消防局や消防署でポスター、ビラ、リーフレット等の印刷物を作成し、防火・防災行事など様々な機会に活用しています。

また、消防署や市民防災センター等における消防を紹介するオリジナルビデオの上映や、写真・イラストによる広報パネル等の展示により、広く市民の皆様に防火・防災を呼び掛けています。

■ インターネットによる情報発信

平成9年7月に消防局ホームページを、平成22年1月には消防局ホームページモバイル版を開設し、防火・防災情報の発信を行っています。市民の皆様にとって更に使いやすく見やすいものとするため、音声読上げ、文字拡大、配色変更などの機能を有し、高齢者や障害のある方々にも使いやすいように更なる充実を図り、防火・防災情報をあらゆる市民の方々への確に発信するよう努めています。また、平成25年10月からは消防局フェイスブック及びツイッターを開設し、タイムリーな情報発信を行っています。



京都市消防局ホームページ



京都市消防局ツイッター

■ 災害情報自動案内システム

平成 27 年 5 月から、災害情報自動案内システムの運用を開始し、災害発生場所等の情報を京都市消防局のホームページに掲載しています。



■ 国際交流・視察研修等

各種団体や国内外の行政関係者などによる消防庁舎、機械器具、組織運営等についての視察研修を受け入れ、消防防災業務を分かりやすく説明し、当局の消防行政への理解と認識が深まるよう努めています。



主な広聴活動

市長への手紙をはじめ、コールセンターへの問合せ、消防の相談電話、Eメール、防火防災指導等を通じて市民の皆様から寄せられた要望や苦情、問合せ等を受け付けています。

職務研究の推進

職務研究の取組

■ 消防研究発表会

職員の創意工夫と創造力の発揮により、業務改善等の研究を行った結果について、昭和 36 年（1961 年）から毎年、消防研究発表会を開催しています。そこで発表された研究論文や試作品は各方面から高い評価を得ています。

■ 第 60 回消防研究発表会

研究発表会の研究テーマは、消防装備の開発・改良、消防活動戦術、火災予防のための手法など広範囲にわたります。今回は、市内の各消防署・分署の消防職員が、業務の中で見つけた課題の克服に向けて取り組んだ調査や検証の結果など、12 作品を発表しました。

発表作品のうち審査で選ばれた作品については、総務省消防庁主催の「消防防災科学技術賞」や全国消防長会東近畿支部主催の「消防研究会」に応募し、更に「消防研究会」で支部長から推薦を受けた作品は、一般財団法人全国消防協会主催の「消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文」の募集に応募されます。

また、より効果があると思われる研究作品については、更なる研究及び検証実験を行い、実用化を推進していきます。

● 主な発表作品



スプレッター使用時のアタッチメントの作成



脱衣除染訓練用衣服の作成



山岳遭難事故における効果的な搜索方法



ピクトグラム（絵文字）を用いた広報媒体の作成と効果の確認

消防研究発表の状況（令和元年度）

■ 第 60 回京都市消防研究発表会における発表作品

	件 数
発表作品	12
うち論文	8
うち機器	4

※ 令和 2 年度消防防災科学技術賞に、発表作品のうち論文 4 件を応募

■ 第 59 回全国消防長会東近畿支部消防研究会における京都市の発表作品数

	件 数
発表作品	2
うち論文	1
うち機器	1

※ 令和元年度全国消防協会「消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文」に、発表作品のうち機器 1 件を応募

他団体への応募・受賞の状況（令和元年度）

■ 令和元年度全国消防協会「消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文」に応募した京都市の発表作品数

	件 数
応募作品数	1
うち論文	0
うち機器	1
入賞作品	0

■ 総務省消防庁の令和元年度消防防災科学技術賞に応募した京都市の発表作品数

	件 数
応募作品数	3
うち論文	3
うち機器	0
入賞作品	2

全消会・消防庁 消防研究発表会作品（令和元年度）

京都市消防局では、消防研究発表会で発表された作品の中から毎年、一般財団法人全国消防協会主催の『消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文』と総務省消防庁主催の『消防防災科学技術賞』へ応募しています。

なお、『消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文』には、全国消防長会東近畿支部で行われる消防研究会において、支部長から推薦を受けた作品のみが応募されます。

■ 近年受賞した作品紹介（抜粋）

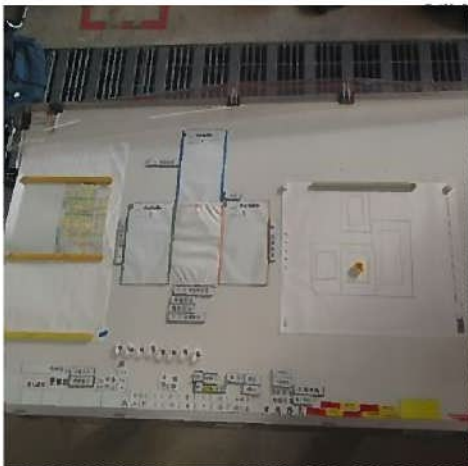
年度	受賞	タイトル	内 容
令和元年	総務省消防庁 優秀賞	災害現場指揮における効率的な図化・情報処理手法の開発 —指揮隊における手法の統一化の検証—	災害現場の指揮における「情報」の収集・整理方式について、効率的でミスの生じ難い手法を確立させるため「書き込み自由なマグネットシートの貼付による災害状況や街区状況を表現する図化」「トリアージタッグ式の複写式情報処理カード」及び「指揮命令とその実行状況を把握するためのチェックシート」を考案し、実地検証等を行ったもの。
令和元年	総務省消防庁 優秀賞	災害用写真パネル等を活用した「実働と座学同時進行型防災訓練」の開発—座学者にも実働効果が見込める訓練手法—	防災訓練の企画側と参加者双方の労力の省力化及び見学者にも実働効果が見込める工夫や仕掛けを盛り込んだ訓練手法を考案するもの。また、共助の力を最大にするため、「地域の初動措置」の概念も提案するもの。
平成30年	全国消防協会 優賞	透明吸管による可視化の効果及び教育ツールとしての展開	消防車の吸管を透明樹脂管を用いて作製することで、水の流れを可視化できるとともに、サイホン現象や空気溜まりの動きなどを見ることができることから、放水や給水活動技術の教育訓練に有効活用しようとするもの。
平成30年	総務省消防庁 優秀賞	外国語に対応した車外マイクの機能強化について	緊急走行時に居合わせた外国人観光客に退避行動を促すため、救急車の車外マイクに外国語（英語、中国語、ハングル）の注意喚起アナウンスを搭載のうえ実際に使用し、アンケート調査による検証を行ったもの。
平成30年	総務省消防庁 奨励賞	空気噴射消火器とその圧力で作動する標的を用いた屋内での訓練指導方策の考察	小規模飲食店等からの火災減少につなげるため、一人で持ち運びができ、屋内などの狭い場所でも水を使わず、容易に訓練の指導ができる訓練用器材を作成し、効果的な指導方策について研究したもの。
平成29年	全国消防協会 最優秀賞	査察員教養シミュレーション動画の作成とその効果の検証について	新任査察員の現場査察の経験不足を補い、査察力を向上させることを目的として、査察員教養シミュレーション動画を試作し、効果を検証したもの。
平成29年	総務省消防庁 優秀賞	火災動画等を利用した筒先部署位置研修法の一考察について	ミニチュア建物燃焼実験動画及び火災現場動画を活用した筒先部署位置についての研修方法を研究したもの。

■ 受賞作品写真紹介（抜粋）

● 災害写真パネル等を活用した「実働と座学同時進行型防災訓練」の開発



● 災害現場指揮における効率的な図化・情報処理手法の開発



建物火災の物的情報図化の様子

● 透明吸管による可視化の効果及び教育ツールとしての展開



作製した透明吸管



● 査察員教養シミュレーション動画の作成とその効果の検証について



■ 受賞歴一覧

応募先	年度	区分	タイトル	賞の区分
全国消防協会	S50	機器	自動ガス遮断器の研究試作について	優賞
			シャッターの破壊方策について	努力賞
			非常用進入窓の実態について	努力賞
	S51	機器	大型はしご車のはしご先端位置確認燈の設置について	秀賞
			化学泡使用後における消泡剤の活用について	秀賞
		論文	子どもの火遊びの心理について	努力賞
			広告マッチの行方調査	努力賞
	S52	機器	消防用ホースの差込式結合金具の改良について	秀賞
			既設のガス風呂釜に設置できる空だき発見器及び防止器について	秀賞
			電熱式感知器加熱試験器の試作について	優賞
		論文	桧皮ぶきの燃焼について	優賞
			たばこによる可燃物の着火実験結果	優賞
			板ガラス破損時における飛散の実態と対策について	努力賞
	S53	機器	ろうあ者用火災感知器の考案について	秀賞
			天ぷら鍋の改良について	優賞
		論文	幼児の防火指導について	秀賞
			たばこによる寝具の着火性	努力賞
	S54	論文	消防自動車等の視界と（死角）と安全運行について	努力賞
	S55	機器	救助検索棒の試作について	秀賞
			赤色表示灯の改良について	秀賞
			煙感知器試験器の試作について	努力賞
			誘導灯の非常電源の定期自動点検機器の開発について	努力賞
	S56	機器	警報装置付「天ぷら揚簀」の試作について	優賞
		論文	静電気除去対策について	努力賞
	S57	機器	大型はしご車の梯上等高所活動時の墜落防止装置の試作について	秀賞
			改良型安全ベルトの試作について	優賞
		論文	身体障害者に対する防火指導の一方策について	秀賞
			油なべ火災用消火剤に関する一考察について	優賞
			簡易な間仕切壁等によるスプリンクラー散水障害について	優賞
	S58	機器	移動式ホースラックの考案について	秀賞
			自動火災報知設備の非火災報防止装置の試作について	優賞
			吸水シート of 試作について	優賞
		論文	防ぎょ活動と体力について	最優秀賞
			水損防止に対する一考案について	秀賞
			安全な「しみ落とし用溶剤」の開発について	優賞
	S59	機器	ミニチュア油なべ火災実験器の試作について	秀賞
			電気ストーブに可燃物が触れた場合に通電を断にするための方策について	優賞

応募先	年度	区分	タイトル	賞の区分
全国消防協会	S59	論文	虫による煙感知器の非火災報防止対策について	最優秀賞
			スピーカーの耐熱性向上の一方策について	秀賞
	S60	論文	地中埋設配管の腐食防止に関する研究について	優賞
	S61	論文	イメージ・トレーニングの効果	最優秀賞
			洞道、ダクト等の火災における消火方法の考察	優賞
	S62	機器	石油ストーブ用カートリッジタンクの改良について	優賞
			閉鎖不良防火戸の修正が出来るヒンジの開発について	優賞
		論文	火災シミュレーションを取り入れた防火指導の一考察	最優秀賞
			屋内消火栓音声案内装置の試作及びその効果について	秀賞
			病院における避難計画評価方法の考察について	優賞
	S63	機器	水圧回転式乳化处理機の試作について	優賞
		論文	火災発生時におけるコンピューターによる水利選定の一考察について	最優秀賞
			高齢化対策としての装備の軽量化とその効果について	秀賞
			訓練用泡混合装置の試作について	優賞
	H1	機器	高所及び低所における救助器具の応用開発について	優賞
		論文	必要ポンプ台数を決定するための方策（シミュレーション手法）について	最優秀賞
			災害現場活動における活動筋群の研究と消防ウエイトトレーニングについて	秀賞
	H2	機器	消火シミュレーターの開発について	秀賞
		論文	火災危険予知シミュレーションビデオの開発について	最優秀賞
			災害現場用ゴム長靴のフィット化について	優賞
	H3	機器	常時閉鎖式防火戸開放警報装置の開発について	秀賞
			エマージェンシーコール（自動警報発信）の試作について	秀賞
		論文	防火戸における色彩学的考察	秀賞
	H4	論文	災害現場活動等に対する教育用ビデオの作成について	秀賞
	H5	機器	防煙防火ロールアップスクリーンの試作	最優秀賞
			空気呼吸器の改良について	秀賞
			MULTIFARIOUS CASE 対応型誘導灯の試作について	優賞
		論文	防火戸の閉鎖障害排除の考察について	最優秀賞
	H6	機器	階段用搬送具の開発について	秀賞
			電気ストーブに可燃物が接近した場合の安全装置の開発について	優賞
			てんぷら鍋火災実験器の改良	優賞
		論文	マニュアル検証訓練（４項関係）の実施方法に係る一方策について	最優秀賞
	H7	論文	大規模建築物等の工事における火災危険度評価と防火診断に関する研究	秀賞
	H8	論文	ガソリン流出事故に対する一方策について	優賞
総務省消防庁	H9	論文	大規模事故における救急搬送シミュレーションの実施について	優秀賞

応募先	年度	区分	タイトル	賞の区分
総務省消防庁	H9	論文	「地域社会の防火・防災力の向上に関する研究」=木造密集地域の危険度評価体系の確立と検証=	優秀賞
全国消防協会		機器	住宅用防災機器の普及方策と器具の試作	優賞
		論文	外国の方々に分かる消火器使用方法の表示と訓練	優賞
総務省消防庁	H10	論文	木造共同住宅に対する火災予防対策について	優秀賞
文化財(美術工芸品)の防火・消防活動対策に関する考察			優秀賞	
機器		操作要領の絵文字化(消防用設備等の標識・操作要領表示の改良)	優秀賞	
		高所活動用ホース固定器具の開発について	優賞	
全国消防協会		論文	住宅用火災警報器の普及並びに設置場所に関する一考察	秀賞
総務省消防庁	H11	機器	ラリングアルマスク固定補助器具の開発について	優秀賞
			災害現場活動靴の改良	優秀賞
		論文	都市型水害用インスタント水のうの開発	優秀賞
			残存危険物の測定方法にかかる研究について	優秀賞
			出火危険を防ぐための高齢者が使いやすい差込みプラグの改良について	優秀賞
		全国消防協会	機器	鉄扉等の鋼製扉の効率的な開放方法について
論文			熱・煙複合光電式スポット型感知器による非火災報対策について	最優秀賞
			救命処置時の説明のあり方と接遇要領の一方策	秀賞
総務省消防庁	H12	論文	文化財を火災から守るために仏像等の文化財搬出・防災対策に関する研究	優秀賞
初期消火効力の向上策に関する研究			優秀賞	
機器		持運びが便利な危険物実験装置及び収納ケースの試作について	優賞	
		サージカルテープカッターの試作について	優賞	
全国消防協会		論文	ゲーム手法等を取入れた防火及び自主防災指導について	優賞
総務省消防庁	H13	論文	環境にやさしい油流出事故の処理方法について	優秀賞
中高層建物におけるサイホン現象を利用した水損防止について			優秀賞	
水損防止に関する一方策			奨励賞	
全国消防協会	機器	伸縮自在型救助用当て木の試作について	優賞	
		論文	広域的災害時における初期の自主防災活動要領について	秀賞
総務省消防庁	H14	論文	パソコンで作る幼児の防火教育用「ビデオ絵本」の作成について	優秀賞
機器		障害突破式防火設備の開発について	秀賞	
		現場活動における高酸素濃度ガスの効果について	秀賞	
全国消防協会		論文	スクープストレッチャーの冷たさが傷病者に与える影響についての一考察	優賞
	総務省消防庁		H15	機器
ダンプカー等から土砂を直接投入できる土のう作成機の試作について		優秀賞		
論文		視覚障害者用、手の平感覚による避難誘導装置の考察		奨励賞
		小学生を対象とした普通救命講習について		奨励賞

応募先	年度	区分	タイトル	賞の区分
全国消防協会	H15	論文	発光物質（ゲル状）を活用した危険ゾーン明示についての考案	優賞
総務省消防庁	H16	論文	高所から低所への放水体形について	優秀賞
全国消防協会	H17	論文	事業所における応急手当の向上についての一考察	秀賞
総務省消防庁		機器	防火水槽の蓋を容易に開放できる器具の開発について	優賞
			可搬式小型動力ポンプソーラー充電の考案（試作）について	優秀賞
		論文	大人に対する防火広報に用いるパネルシアターの作成とその有効性について	優秀賞
			「春夏秋冬、車を降りた時の静電気を一年を通じて測定した結果」とその活用の一考察について	優秀賞
			化学泡消火器の訓練指導用薬剤についての考察	優秀賞
全国消防協会	論文	簡易にできる油分検出及び数値化による分析方法について	秀賞	
筒先進入技術等の伝承の一方策について		優賞		
総務省消防庁	機器	住宅用火災警報器の設置推進用説明キットの作成について	秀賞	
	機器	ホースラインや歩道の段差等を安全に乗り越え可能なホースカーの改良	優秀賞	
		聴覚障害者用住宅火災警報器の付属装置の開発について	優秀賞	
	論文	ガスこんろの過熱防止装置と天ぷらなべ火災に関する考察	優秀賞	
		防火かるたを活用した子どもワークショップの手法について	優秀賞	
		住宅用火災警報器は高齢者世帯にどこまで有効か	奨励賞	
総務省消防庁	H19	論文	ゲーム感覚を取り入れたタウンウォッチングについて	優秀賞
より迅速かつ的確な放水活動を行うための「トレーニングシート」の作成について			優秀賞	
総務省消防庁	H20	論文	潜水検索時の安全策の考察について	優秀賞
文化財の搬出計画に関する考察-文化財セーフティカードと文化財トリアージタグを活用した搬出活動-	優秀賞			
全国消防協会	H21	機器	要救助者等のプライバシー保護用シートの作製について	最優秀賞
			担架使用時の体のずれを防止する器具「マルチ式フットストッパー」の試作について	秀賞
			救急指導アイテム「胸骨圧迫補助シート」の試作について	秀賞
			筒先の角度を容易に変えることのできるホースの開発について	優賞
総務省消防庁	論文	観光ガイドによる文化財の震災対策に関する考察-観光ガイドは文化財のバイスタンダー-	優秀賞	
救急活動における接遇についての一考察		優秀賞		
全国消防協会	H22	機器	「外国語対応救急活動シート」の改良について	優賞
			救助ロープ用投下袋を活用した乳幼児用縛帯の試作について	秀賞
			光を発するマーキング災害現場対応「可変式マーカー」の試作について	秀賞
総務省消防庁	論文	事業所における住宅用火災警報器の設置促進に関する考察-住宅用火災警報器の100%設置を目指して-	優秀賞	
全国消防協会	H23	論文	緊急走行の実写動画を活用した運転技術教育資料の作成	優賞

応募先	年度	区分	タイトル	賞の区分
全国消防協会	H23	論文	義務化後における住宅用火災警報器の設置指導に関する考察 ―壁設置の強調による未設置世帯の解消―	優賞
総務省消防庁		機器	ガンタイプノズルの安全性・利便性を向上させる改良について ～放水形状・放水量の各調整部分にグリップ等を付加～	優賞
総務省消防庁	H24	論文	水難検索棒の試作について	優秀賞
総務省消防庁			ホースの曲折が放水量に及ぼす影響に関する実験と考察	優秀賞
総務省消防庁			救命講習のあり方についての一考察	優秀賞
総務省消防庁			連結送水管への効果的な中継体形に関する考察と実証実験	優秀賞
全国消防協会	H25	論文	防災管理義務対象物における容易性・実効性を高めた防災訓練の開発とその実施結果～スーパーDIG～	優秀賞
総務省消防庁		論文	検査員の技能向上を目的とする情報共有システムの構築について―過去の情報資産を活用した効率のよい手法―	最優秀賞
総務省消防庁		機器	面体着装時の無線音声を明瞭にするマイクロフォンの改良について	最優秀賞
全国消防協会	H26	論文	水深が浅く狭小な用水路におけるホースバッグを活用した吸水活動及び表面流速の簡易計測により流量を導出する方法について	優秀賞
総務省消防庁			水流式排煙装置を活用した文化財保護戦術の構築	優秀賞
全国消防協会			部隊長のための「シミュレーションシート」&「シミュレーション動画」の作成とその効果	最優秀賞
総務省消防庁	H27	論文	道路狭あい地域における消防戦術について～逆引きによる消火栓への水利部署に関する検証～	優秀賞
総務省消防庁		論文	予防業務における人材育成の変革：新任建築検査員が的確に検査を実施するためのチェックリストを核とした教育ツールの構築	優秀賞
全国消防協会	H29	論文	マスキングシートを活用した財産保護活動について	優賞
総務省消防庁		機器	積載型静電気拡散性オイルパンの開発について	優秀賞
全国消防協会	H30	論文	査察員教養シミュレーション動画の作成とその効果の検証について	最優秀賞
総務省消防庁		論文	火災動画等を利用した筒先部署位置研修法の一考察	優秀賞
全国消防協会	R1	機器	透明吸管による可視化の効果及び教育ツールとしての展開	優賞
総務省消防庁		論文	外国語に対応した車外マイクの機能強化について	優秀賞
総務省消防庁		論文	空気噴射消火器とその圧力で作動する標的を用いた屋内での訓練指導方策の考察	奨励賞
総務省消防庁	R1	論文	災害現場指揮における効率的な図化・情報処理手法の開発 ―指揮隊における手法の統一化の検証―	優秀賞
総務省消防庁			災害写真パネル等を活用した「実働と座学同時進行型防災訓練」の開発 ―座学者にも実働効果が見込める訓練手法―	優秀賞

応急手当の普及啓発

応急手当の普及啓発

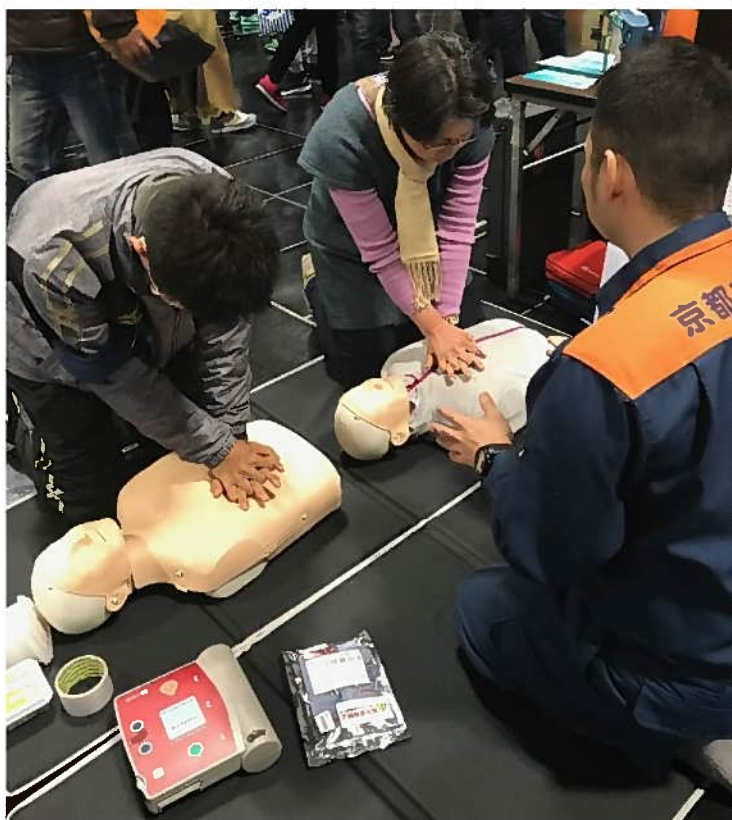
目の前で人が倒れた場合に、居合わせた人がすぐに応急手当を始めれば、救命率は向上します。京都市消防局では、一人でも多くの市民の皆様に応急手当の知識や技術を身に付けていただくため、救命講習を開催するなど応急手当の普及に取り組んでいます。

■ 救命講習

平成16年7月、一般市民によるAED（自動体外式除細動器）の使用が認められたことから、AEDの使用方法等を含めた「普通（上級）救命講習」や「応急手当普及員講習」を実施しています。

平成26年2月からは「e-ラーニングを活用した普通救命講習」を開始しました。

当局では平成16年度に「いざというときに応急手当のできる人づくり推進計画」を策定するとともに、応急手当の普及啓発を積極的に推進しており、令和2年3月末で救命講習修了者は延べ60万人を超えました。



■ 救命入門コース

平成24年4月から、小学5・6年生を受講対象とした「救命入門コース」を実施しています。

■ 救命講習用資器材の貸出し

令和2年1月から、救命講習用資器材の貸出制度を開始し、応急手当普及員単独で救命講習を実施することができるようになりました。

■ 事業所との連携

AEDの設置促進のための事業所間ネットワークである「安心救急ネット京都」や、事業所に設置されている、緊急時に利用可能なAEDをインターネット上に表示する「AEDマップ」、救急事故発生時に通報の支援や応急手当をしていただく「安心救急ステーション」など連携し、応急手当の普及啓発をより一層推進します。

消防装備・安全運転教育・車両整備等

消防装備

災害現場活動に必要な消防装備の各種点検や更新，空気呼吸器等の高圧空気の製造充填を行い，消防装備の充実強化を図るとともに，大規模災害や特殊災害に対応するため，消防活動総合センターに備蓄倉庫を設け，消防器材や化学消火薬剤等を一元管理して，あらゆる災害に対して直ちに供給できる体制を整えています。

■ 備蓄消防装備

消防活動総合センターの備蓄倉庫では，京都市内での大規模災害発生時に備えて備蓄消防装備の保管と管理を行っています。

また，支援課特別装備隊が，災害現場で不足している消防器材や化学消火薬剤等を迅速に災害現場へ搬送する体制を整えています。

大規模災害用器材	小型動力ポンプ，コンクリート粉砕器具，削岩機，エンジンカッター，チェーンソー，空気呼吸器，空気ボンベ，酸素ボンベ，立入禁止表示テープ，エアータント，可搬式組立水槽等
化学消火薬剤	メガフォーム，ドライケミカル，ハイフォーム，浸透剤
水災用器材	越水止め水のう，河川等止水シート，丸シャベル，つるはし，両口ハンマー等



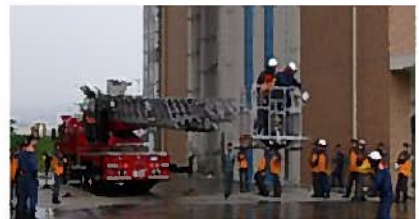
備蓄倉庫



定置式空気製造施設

安全運転教育等

消防車等の運転技術の維持向上を目指し、安全運転教育や訓練を実施するとともに、交通事故防止対策にも積極的に取り組み、併せて操作技術を向上させるための技術指導を行っています。



項 目	主 な 実 施 場 所
職 場 に お け る 安 全 運 転 教 育 (安全運転管理者・外部講師等)	各 消 防 署
安全衛生委員会等における検討	各 消 防 署
危 険 予 知 訓 練	各 消 防 署
交 通 事 故 防 止 の 事 例 検 討	各 消 防 署
安 全 運 転 技 能 向 上 訓 練	消 防 活 動 総 合 セ ン タ ー
学 校 教 育 に お け る 安 全 運 転 教 育	消 防 活 動 総 合 セ ン タ ー
消 防 機 械 操 作 指 導	消 防 活 動 総 合 セ ン タ ー

車両等整備状況

消防活動総合センターの車両整備工場では、近畿運輸局の指定自動車整備工場の認定を受けており、継続検査整備、定期点検整備（3箇月点検、12箇月点検、24箇月点検）や臨時整備を実施するとともに、消防ポンプやはしご車、化学車等の特殊装備の点検整備も行っています。

また、市内各消防署では、整備管理補助者により、各所属配置の消防車両等の定期点検（6箇月）を行っています。



消防音楽隊の活動

消防音楽隊の活動

消防音楽隊は、昭和 30 年 12 月に発足しました。

音楽を通じて、「ひと・まちの『絆』でつくる安心都市・京都」の実現を目指し、京都市内 5 箇所（キタオオジタウン、ゼスト御池、京都駅前地下街ポルタ、イオンモール京都桂川、パセオダイゴロー）で毎月開催している「防火ふれあいコンサート」をはじめ、市内各地で実施される防火・防災行事等に出場し、音楽を織り交ぜながら市民の皆様に防火・防災を呼び掛けています。

平成 28 年からは、京都市民共済生活協同組合と共催で「京都市消防音楽隊 京（みやこ）コンサート～つなげよう 防火・防災の絆～」を年 1 回開催し、市民の皆様の防火・防災意識をより一層高めていただいています。

また、パネルシアターや替え歌を取り入れるなど、分かりやすい防火・防災啓発をモットーに、演奏会場の広さに応じた演奏形態や、対象者の年代等に合わせた演奏プログラムで柔軟に対応し、市民の皆様との「ふれあい」を大切にしたい、きめ細かな活動を行っています。



消防カラーガード隊の活動

京都市消防カラーガード隊は、昭和 61 年 5 月に発足しました。

女性消防団員により編成され、「きょうとファイヤーエンジェルス」の愛称で、ストレートトランペットやフラッグなどを用いて、消防音楽隊の演奏に合わせて華麗な演技を披露し、防火・防災の啓発活動に努めています。



消防学校の沿革

消防学校の沿革

京都市消防学校は、昭和 23 年 3 月 7 日の京都市消防局発足と同時に東山区智積院山内の旧京都府消防練習所に設置され、昭和 25 年 1 月に伏見区深草越後屋敷町に移転して同地で 59 年間を経た後、平成 21 年 4 月に現在地へ移転しました。

■ 京都市消防学校の歴史

昭和 23 年 3 月 7 日	京都市消防局発足に伴い、消防学校を設置 (東山区東大路通七条南入東瓦町 24 番地 智積院山内 (旧京都府消防練習所))
昭和 25 年 1 月 11 日	伏見区に新築移転 (伏見区深草越後屋敷町 61 番地)
昭和 42 年 12 月 20 日	校舎を木造建物から耐火建物に建替え
昭和 49 年 10 月 19 日	屋内訓練場を新設
昭和 52 年 7 月 12 日	水上訓練場を新設
昭和 54 年 6 月 4 日	高層訓練塔を新設
平成 21 年 4 月 1 日	現在地に新築移転 (南区上烏羽塔ノ森下開ノ内 21 番地の 3) ※ 消防活動総合センター (消防学校や訓練 施設等) として運用開始
平成 29 年 4 月 1 日	京都府立消防学校と教育訓練の共同化を 開始



昭和 25 年頃の消防学校



昭和 55 年頃の消防学校



現消防学校 (南区)

■ 歴史銘板

京都市消防局職員 O B で組織されている「消防春秋会」から、京都市消防学校の沿革を明示した銘板を寄付していただき、消防学校内に設置しました。

この銘板は、消防学校の足跡を紹介するとともに、現消防学校しか知らない若手職員にこれまでの歴史を伝え、また、各種教育等で来校するベテラン職員にとっては自身の初任教育生時代を思い出し、消防人としての原点に立ち返るきっかけにもなるものです。



消防学校の沿革を記した銘板



1 階エントランスの北側壁面に設置

市民防災センター

災害から生命や暮らしを守るためには、市民の皆様一人一人が、普段から我が家、我がまちを災害から守るという心構えを持ち、災害に強いまちづくり、人づくりに努めることが大切です。

市民防災センターは、市民の皆様へ、災害の疑似体験を通じて、防災に関する知識や技術を身に着けていただき、防災行動力の向上を図ることを目的とした施設として、平成7年9月1日に開館しました。また、よりタイムリーな情報発信につとめており、令和2年4月に防災行動体験コーナーを土砂災害体験コーナーにリニューアルしました。

市民防災体験の科目と内容

■ 体験プログラム

映像体験室	京都の地震をはじめとした各種災害の歴史や恐ろしさ等について紹介します。
強風体験室	強風発生装置により、風速32メートルの強風下における行動の困難性を体験します。
地震体験室	震度7までの横揺れの体験や、緊急地震速報と連動した地震を体験し、地震発生時の心構えと日頃の備えについて考えていただきます。
避難体験室	ホテル火災をリアルに再現し、普段経験できない煙の中の避難行動を体験します。
消火訓練室	モニターに火災の映像を映写し、訓練用消火器や屋内消火栓により消火方法を学びます。
都市型水害体験コーナー (4Dシアター 迫りくる地下街の恐怖)	4D（立体映像＋座席振動）で地下街への浸水の恐怖を表現し、水災害発生時の行動について考えていただきます。
総合訓練室	物品販売店舗やホテル、共同住宅など様々な設定できる模擬建物内で火災発生時の行動手順についての総合的な訓練を行います。
くらしの安全コーナー (応急手当体験)	救急訓練人形を使用して、応急手当の要領を実習します。



市民防災センター



地震体験室



避難体験室



4Dシアター 迫りくる地下街の恐怖

■ 自由体験コーナー



都市型水害体験コーナー



土砂災害体験コーナー



キッズ・ファイヤーランド



通報訓練コーナー



くらしの安全コーナー



消防ヘリコプター

防火・防災指導

「防災週間」や「防災とボランティア週間」、学校等の休み期間中に、講演会や防災フェア等のイベントを開催し、防火・防災思想の普及啓発を図っています。

各種講習

事業所における防火管理・防災管理に必要な知識や技能を習得していただくための講習や、応急手当普及の一翼を担っていただく方を養成するための講習を実施しています。

- 甲種防火管理講習（新規講習・再講習）
- 乙種防火管理講習
- 防災管理講習（新規講習）
- 防火・防災管理講習（新規講習・再講習）
- 自衛消防業務講習（新規講習・再講習）
- 防火対象物点検資格者講習（本講習・再講習）
- 防災管理点検資格者講習（新規講習・再講習）
- 防火・防災管理業務受託法人等教育担当者講習
- 応急手当普及員講習（本講習・再講習）
- 普通救命講習
- 上級救命講習

防火防災イベントの実施状況

災害に強いまちづくり講座（Ⅰ）	令和元年6月30日・7月6日
BOSAI サマーフェスタ	令和元年8月4日～8月12日
防災展（防災週間）	令和元年8月31日～9月1日
救急展（救急医療週間）	令和元年9月7日～8日
オータムフェスタ	令和元年9月14日～16日
災害に強いまちづくり講座（Ⅱ）	令和元年10月27日・11月2日
防災フェスタ 2020（防災とボランティア週間）	令和2年1月16日～19日
園児の描く消防の図画展示会	令和元年11月から令和2年2月までの土・日の2日間を単位に8回



BOSAI サマーフェスタ 2019



防災グランドフェスタ 防災展



防災グランドフェスタ 救急展



防災フェスタ 2020



園児の描く消防の図画展示展